

令和5年度 事業報告

I 公益目的事業に関する事項

令和5年度においては、公益目的事業として、農業及び農村に関する調査研究、農業及び農村に関する調査研究の成果の普及、農業及び農村に関する調査研究の助成並びに農業及び農村に関する学術上の顕著な貢献をした者の表彰に係る事業を行った。

1 農業及び農村に関する調査研究

(1) 研究員による個別研究

各研究員の研究成果を『農業研究』に掲載した。(別添参考)

生源寺眞一研究員

農業者教育の今日的課題

坪田邦夫研究員

日本の食料安全保障論管見

河原昌一郎研究員

中国農村金融機関の展開過程と今後

田家邦明研究員

府県の地方森林環境税はどのような役割を果たしているか

平成30年産米からの生産調整の見直し：再考

岩元明久研究員

わが国近世までの牛馬飼養の歴史 中

吉岡修研究員・岩元明久研究員

自給飼料を利用した和牛繁殖の実証的調査研究(11)

(2) 研究会方式及び研究企画委員会方式による研究

研究会のテーマについて、研究員が主査となって外部の研究者と本研究所研究員から成る委員会を設置し、また、研究企画委員会についてはそれぞれ以下のとおり研究を行った。

① アジア食料農業政策研究会

主査 坪田邦夫研究員

標記テーマの研究会の個別報告は、令和4年2月に「変容するアジア食料農業と農政」(日本農業研究シリーズNo.26)として刊行した。令和5年度は、そのとりまとめとして、OECDによる政策指標データを用いて、アジアの7か国(日本、韓国、中国、インド、インドネシア、フィリピン、ベトナム)の農業政策の変化を比較・分析した。結果は令和6年度の『農業研究』に掲載する。

② 農業・農村の諸課題に関する研究企画委員会

農業・農村の諸課題について、興味深い論文を発表した研究者等を招聘し、報告を聴取し、意見交換を行うとともに、その者の了解を得て関係資料等についてホームページに掲載し、関係者に対し情報公開した。

令和5年度研究企画委員会

第1回（令和5年6月29日開催）

講師：小澤 卓氏

「離島振興の現状と第7次離島振興法改正について」

第2回（令和5年9月22日開催）

講師：大呂 興平氏

「日本の国土周辺部における肉用牛繁殖経営の動態」

第3回（令和6年1月23日開催）

講師：黒谷 伸氏

「外国人技能実習制度の見直し～有識者会議の最終報告について」

第4回（令和6年2月7日開催）

講師：窪田 稔博氏

「新潟県の米政策について」

（3）農業及び農村地域の動向に関する調査研究

農業及び農村に関する調査研究を行っている若手研究者を研究員に委嘱し、地域の動向に関する調査研究を行うこととし、令和5年度においては、引き続き、森田明氏（宮城大学食産業学群教授）、山浦陽一氏（大分大学経済学部准教授）、小澤 卓氏（公益財団法人日本離島センター総務部総務課長）に委嘱した。

その調査研究成果（森田明氏「復興完了後の被災地の農業の展開」、山浦陽一氏「中山間地域水田農業の多様な担い手と今後の方向性一定点観測1-3-1」、小澤卓氏「離島の農業後継者対策について」）を『農業研究』に掲載した（別添参考）。

（4）実験農場における調査研究

実験農場においては、令和3年度から開始した黒毛和牛の繁殖雌牛の飼育及び子牛生産並びに露地野菜（キャベツ等）の生産を行う複合経営に関する成立条件の実証調査研究の定量的定性的データの本格的な収集・分析を続け、畜産部門の研究員及び農業技術・野菜部門の研究員の2名体制で調査研究を行った。その研究成果を『農業研究』に掲載した。

なお、実験農場の運営に当たっては、「実験農場連絡協議会」を設け、事業の実施状況等の把握を行った。

また、外部の学識経験者から成る「実験農場調査研究生産活動事業審査会」を設け、上記事業実施状況等の報告について意見を聞いた。

2 農業及び農村に関する調査研究の成果の普及

1の調査研究の成果を『農業研究』に掲載し、大学等の関係方面に配布するとともに、ホームページに公表したほか、JA馬路村代表理事 木下彰二氏他3氏を招き、講演会を開催し、参加者との質疑応答を含め、その講演録を『農業研究』の別冊として、大学等の関係方面に配布するとともに、ホームページに公表した（別添参考）。

令和5年度講演会

第1回（令和5年5月26日開催）

講師：木下 彰二氏

「林業の村から ゆずの村へ」

第2回（令和5年7月21日開催）

講師：山下 正明氏

「JAたじまの環境創造型農業とコウノトリ育むお米について」

第3回（令和5年8月22日開催）

講師：中嶋 康博氏

「食料・農業・農村政策審議会 基本法検証部会 中間とりまとめについて」

第4回（令和5年10月5日開催）

講師：佛田 利弘氏

「未来の日本農業を担う農業経営は何か
—雇用法入経営と自営家族経営の比較と展望—」

3 農業及び農村に関する調査研究の助成

農業及び農村に関する調査研究の将来の担い手に、その調査研究に対し助成し、併せてその成果を普及するため、平成19年度から「人文・社会科学系若手研究者助成事業」を実施している。令和5年度については、応募者から3名を選考し助成を行った。令和6年度にこの成果の報告を聴取し、研究成果として普及するのにふさわしいと認められた場合、令和6年度に発刊予定の『農業研究』に掲載する。

金澤 なつ美（岩手大学大学院連合農学研究科）
「産地と消費者をつなぐ都市型青果店の経営実態」

北野 真帆（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）
「世界農業遺産認定地域における家族農業の動態に関する民族誌的研究」

李 娜（京都大学大学院農学研究科）
「地域ブランド緑茶のブランド階層と製品ラインに関する実証分析—中国「龍井茶」と日本「宇治茶」の比較—」

4 農業及び農村に関する学術上の顕著な貢献をした者の表彰

農業に関する学術研究上顕著な業績を挙げ、斯学の発展に多大の貢献をなした者を表彰するため、日本農業研究所賞（隔年3件以内、賞金1件100万円）を授与している。

令和5年度は、この第31回として定款及び「日本農業研究所賞表彰規程」第4条の定めるところにより、受賞候補者を公募し、選考委員会（委員長：三輪睿太郎氏）における審査を経て受賞者を下記のとおり決定した。なお、受賞者への表彰式はルポール麴町において、令和6年5月10日に行った。

受賞者	研究業績の題名
古賀 博	則：電子顕微鏡観察等によるイネいもち病の感染防御機構の解明およびエンドファイトの害虫防除への利用
堂地 修	：牛の凍結受精卵の移植技術の簡易化に関する研究と普及

中 村 俊 樹：モチ小麦等新形質小麦の開発と社会実装

Ⅱ 収益事業

日本農業研究会館等の当研究所で使用していない部屋を、公益法人等 8 団体に貸し付けた。

Ⅲ 法人の管理運営に関する事項

1 評議員及び役員等に関する事項

令和 5 年度の評議員及び役員等は、令和 6 年 4 月 1 日現在、それぞれ次のとおりである。

(1) 評議員

大 杉	立	(八ヶ岳中央農業実践大学校校長)
春 見	隆 文	((一財)日本醤油技術センター理事長)
菊 地	敦 子	((一財)公務人材開発協会理事)
古 在	豊 樹	(千葉大学名誉教授)
佐々木	昭 博	(東京農業大学農生命科学研究所参与(客員教授))
佐 藤	洋 平	(東京大学名誉教授)
染	英 昭	(穀物乾燥貯蔵施設協会理事長)
中 嶋	康 博	(東京大学大学院農学生命科学研究科研究科長・農学部長)
松 本	光 人	(元農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所所長)
吉 田	岳 志	((公社)大日本農会会長)

計10名

(2) 理事及び監事

理事長	田 家 邦 明	
常務理事	菅 原 誠 治	
理 事	市 田 知 子	(明治大学農学部教授)
	大 野 高 志	((公社)日本食肉格付協会会長)
	岡 島 敦 子	(元内閣府男女共同参画局長)
	小 澤 健 二	(元(公財)日本農業研究所研究員)
	河 原 昌一郎	((公財)日本農業研究所研究員)
	生源寺 眞 一	((公財)日本農業研究所研究員)
	竹 内 克 伸	(弁護士)
	西 尾 健	(法政大学名誉教授)
	西 澤 直 子	(石川県立大学学長)
	松 本 聰	(東京大学名誉教授)

計12名

監 事

	高 濱 正 博	(元食品産業中央協議会常任理事)
	吉 國 隆	((一財)大日本蚕糸会顧問)

計 2 名

(3) 顧問

岸 康 彦
服 部 信 司
八 木 宏 典

計 3 名

2 評議員会及び理事会等

令和5年度においては、評議員会、理事会及び監事監査は、次のとおり開催された。

(1) 評議員会

「第1回」令和5年6月19日

出席者 9名（評議員総数10名）

付議され承認された議案

- ① 令和4年度決算書類に関する件
- ② 評議員の選任に関する件

その他報告事項

- ① 令和4年度事業報告に関する件（令和5年6月1日理事会決定）
- ② その他

「第2回」令和6年3月27日

出席者11名（評議員総数11名）

付議され承認された議案

- ① 令和6年度事業計画書及び収支予算書に関する件
- ② その他

(2) 理事会

「第1回」令和5年6月1日

出席者 11名（理事総数12名）

付議され承認された議案

- ① 令和4年度事業報告及び決算書類に関する件
- ② 顧問の選任に関する件
- ③ 第31回（令和5年度）日本農業研究所賞受賞候補者選考委員会の委員委嘱に関する件
- ④ その他

「第2回」令和6年3月15日

出席者 9名（理事総数12名）

付議され承認された議案

- ① 令和6年度事業計画書及び収支予算書に関する件
- ② 評議員会の招集に関する件
- ③ 第31回（令和5年度）日本農業研究所賞受賞者の決定に関する件
- ④ その他

(3) 監事監査

令和5年5月12日

出席者 2名（監事総数2名）

付議され承認された議案

令和4年度事業報告及び決算書類に関する件

3 職 員

令和6年3月31日現在の職員数は、次のとおりである。

本 部 研究員7名、総務部長（兼）1名、参事1名、主事補1名

計10名

実験農場 研究員2名

計2名

4 図 書

令和5年度における図書資料の受入れ状況は、下表のとおりである。

令和5年度収書数

区分	雑 誌 等			単行書（冊）			備 考
	和	洋	計	和	洋	計	
購入	109	0	109	15	3	18	
受贈	294	0	294	11	0	11	
計	403	0	403	26	3	29	

蔵書数

区 分	数 量	備 考
単行書前年までの累計数	21,270 冊	
令和5年度廃棄数	▲10 冊	
令和5年度登録数	29 冊	購入、寄贈等
単行書計	21,289 冊	

（注）資料類には研究報告、紀要、資料等が含まれる。

IV 事業報告附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の内容を補足する重要な事項はないので、附属明細書は作成しない。

別 添

(参考) 令和5年度における主要調査研究成果

* 『農業研究』 (日本農業研究所研究報告第36号)、令和5年12月、B5、318頁

目次内容

- ・ 農業者教育の今日的課題 (生源寺眞一)
 - ・ 日本の食料安全保障論管見 (坪田邦夫)
 - ・ 中国農村金融機関の展開過程と今後 (河原昌一郎)
 - ・ 府県の地方森林環境税はどのような役割を果たしているか (田家邦明)
 - ・ 平成30年産米からの生産調整の見直し: 再考 (田家邦明)
 - ・ わが国近世までの牛馬飼養の歴史 中 (岩元明久)
 - ・ 自給飼料を利用した和牛繁殖の実証的調査研究 (11) (吉岡 修、岩元明久)
 - ・ 復興完了後の被災地の農業の展開 (森田明)
 - ・ 中山間地域水田農業の多様な担い手と今後の方向性— 一定点観測1-3— (山浦陽一)
 - ・ 離島の農業後継者対策について (小澤卓)
- [特別寄稿]
- ・ 水稻在来品種名から垣間みた江戸時代の稲作と農民の姿 (西尾敏彦)
- [令和4年度 人文・社会科学系若手研究者助成事業]
- ・ 山地酪農経営の展開過程および成立条件に関する研究 (光成有香)

* 『農業研究』 (別冊) 第11号、令和5年12月、B5、185頁

令和5年度日本農業研究所講演会記録

目次内容 (敬称略、講演会開催順)

林業の村から ゆずの村へ

(講師 木下 彰二)

(解題 河原昌一郎)

J A たじまの環境創造型農業とコウノトリ育むお米について

(講師 山下 正明)

(解題 矢坂 雅充)

未来の日本農業を担う農業経営は何か

— 雇用法人経営と自営家族経営の比較と展望—

(講師 佛田 利弘)

(解題 岩元 明久)

* 令和5年度日本農業研究所講演会記録、令和5年9月、B5、83頁

食料・農業・農村政策審議会 基本法検証部会 中間とりまとめについて

(講師 中嶋 康博)

(解題 生源寺眞一)